～ Dengue 熱患者の発生について～

- 県内で今年初めての Dengue 熱の患者が確認されました。全国では 34 件（3月13日現在）が報告されています。
- Dengue 熱は、蚊（ネッタイシマカ及びヒトスジシマカ）が媒介するウイルスによって起こる感染症です。熱帯や亜熱帯の全域で流行していますので、渡航する場合は、長袖・長ズボンの着用に留意し、忌避剤を使用するなど蚊に刺されないように注意しましょう。
- 媒介するヒトスジシマカは国外に限らず、国内にも広く分布しています。海外からの帰国後も蚊に刺されないようにすることが大切です。なお、ヒトからヒトへの感染はありません。

1 患者の概要

(1) 患者：男性（20歳代）、荒尾市在住

(2) 職業：会社員

(3) 症状：発熱、頭痛、筋肉痛等

(4) 経過：

2月1日～3月10日

：旅行のためタイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアに渡航。各国で蚊に刺される。

3月7日～3月10日：悪寒、発熱、頭痛、呼吸困難等の症状が出現。

3月10日：インドネシアの医療機関を受診。帰国。

3月12日：症状が続くため、有明保健所管内の医療機関を受診。

同日、県保健環境科学研究所に検体（血液）を搬送。

3月13日：Dengue 熱陽性のため、同医療機関から有明保健所に発生届あり。

現在、症状は回復傾向。

（裏面あり）

参考

■ デング熱について

蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）が媒介するウイルスによっておこる急性の熱性感染症で、東南アジア、南アジア、中南米など熱帯や亜熱帯の全域で流行しています。国内では、平成26年8月以降、東京都立代々木公園に関連する患者の発生が報告されました。

感染経路: ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します（蚊媒介性）。ヒト-蚊-ヒトの経路で感染が伝播し、ヒトからヒトへの感染はありません。

潜伏期: 2～14日（多くは3～7日）

症状: 突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、皮疹などの症状がみられる。通常は、1週間程度で回復するが、ごく一部の患者は重症化してショック症状や出血傾向を呈することがある。

治療: 特異的な治療法はなく、対症療法となります。

■ 感染を防ぐためには

○蚊に刺されないように心がけること。

- ・蚊の多い場所においては、長袖、長ズボンを着用し虫除け剤を使用してください。
- ・家庭周りの小さな水たまり（植木鉢の皿、古タイヤ、竹の切り株など）をなくし、蚊の発生源を減らすようにしてください。

○休養、栄養、睡眠を十分にとり過労を避け、体力の保持に努めてください。

○国内で利用可能なワクチンはありません。

■ 県及び全国の発生状況

R7.3.13 現在

年	H18～H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
熊本県	11	1	3	1	2	3	2	0	0	0	2	1
全国	1,504	293	342	245	201	461	45	8	98	175	231	34

※県内の死亡例について、把握している事例はない。

(問合せ先)

健康危機管理課 感染症対策班

担当 嶋田、田副

電話 096-333-2240 (内線 33154)